

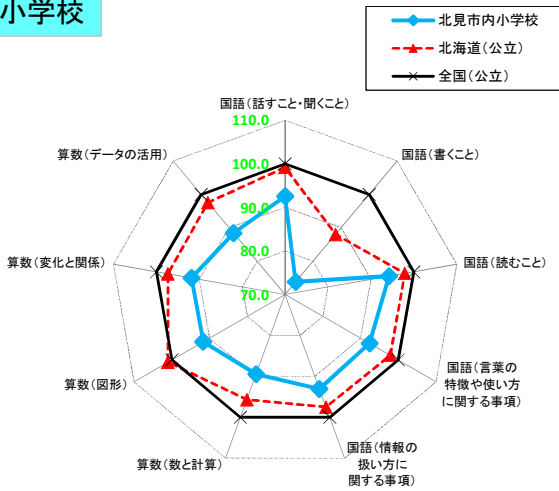
■北見市内の状況及び学力向上策 (小学校数:23校、児童数:761人) (中学校数:14校、生徒数:815人)

【教科全体の状況】

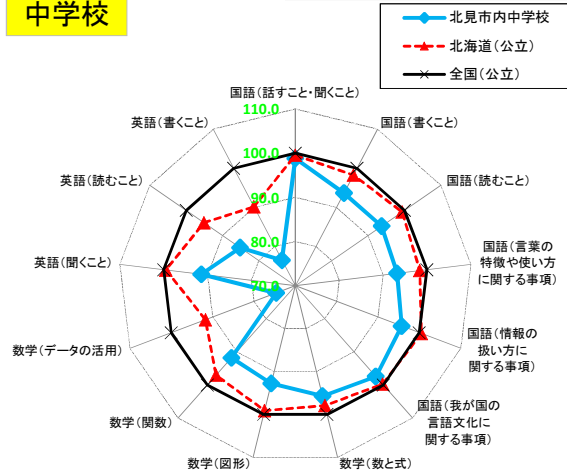
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

平均正答率	小学校	中学校
国語	62	67
算数・数学	56	46
英語		39

小学校

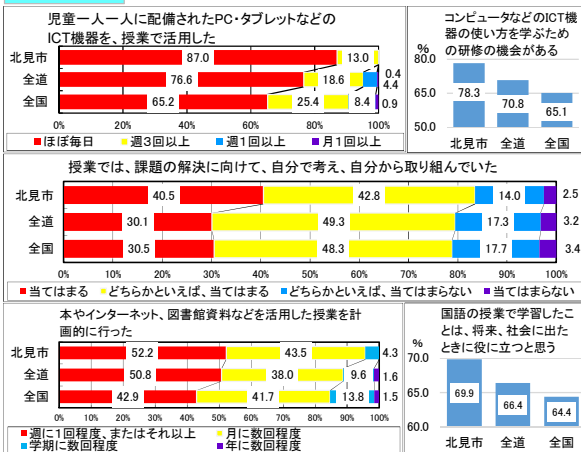


中学校

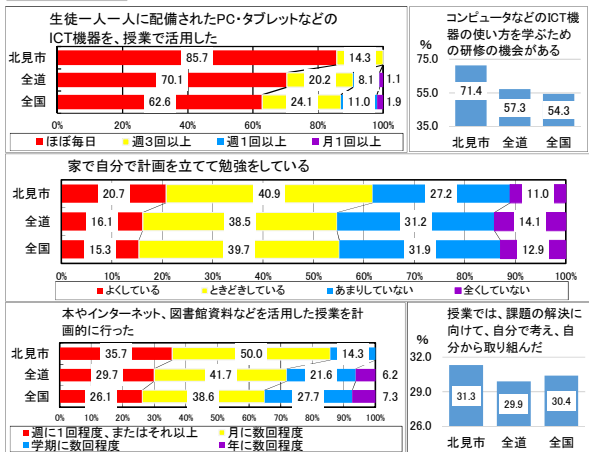


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

市全体で、1人1台端末等ICT機器を効果的に活用した授業改善に係る研修会を開催し、各学校において、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を日常的に活用したことにより、授業改善が図られ、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

授業において、本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行ったことにより、授業改善が図られ、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「読むこと」の領域で全国の平均正答率に最も近くなったと考えられる。

中学校

市全体で、1人1台端末等ICT機器を効果的に活用した授業改善に係る研修会を開催し、各学校において、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を日常的に活用したことにより、授業改善が図られ、家で自分で計画を立てて勉強していると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

市内の多くの中学校において、本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行ったことにより、授業改善が図られ、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「話すこと・聞くこと」の領域で全国の平均正答率に最も近くなったと考えられる。

【北見市の学力向上策】

- ◎ 「北見市学力向上3つのスタンダード」(学習環境をつくる・指導技術をみがく・指導方法を工夫する)の取組の推進
- ◎ 端末を活用した子どもたち一人一人の反応を踏まえた双方向型の授業の実践
- ◎ 教職員の授業力・指導力向上に向けた指導力向上推進事業等の研修会の実施
- ◎ 家庭と連携した学習習慣の確立と望ましい生活環境づくりの取組

【Webページ】



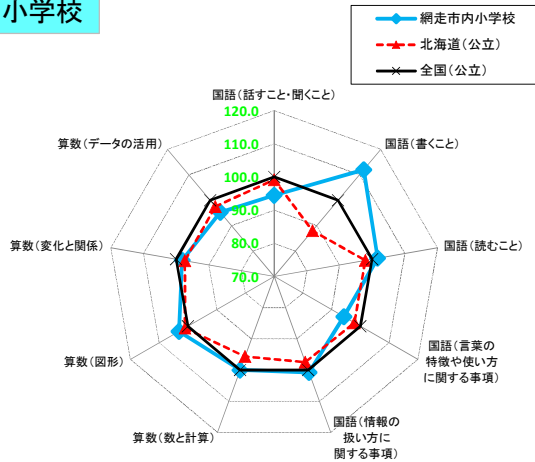
■網走市内の状況及び学力向上策（小学校数：9校、児童数：244人）（中学校数：6校、生徒数：222人）

【教科全体の状況】

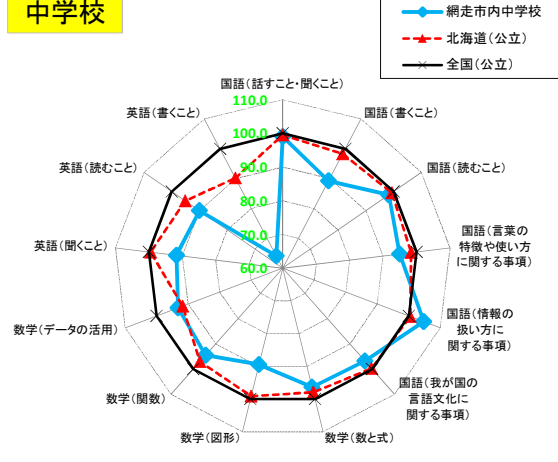
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	65	68
算数・数学	62	48
英語		40

小学校

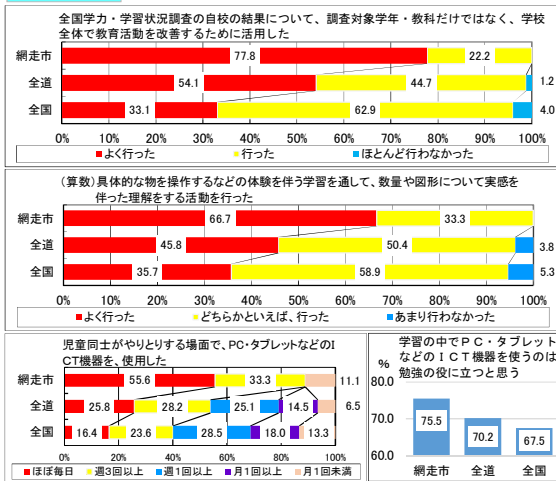


中学校

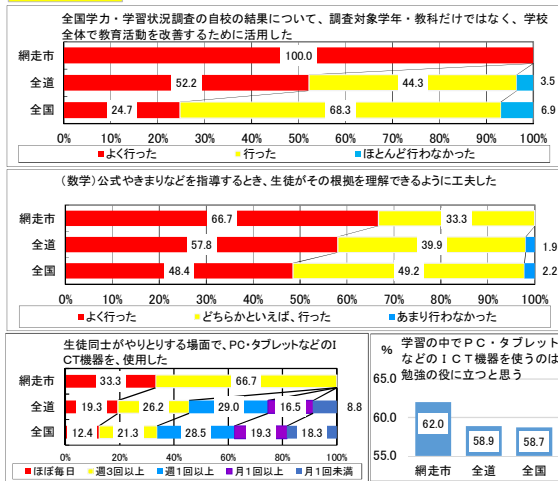


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した。

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、授業改善が図られ、国語では、「書くこと」「読むこと」の領域及び「情報の扱い方に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、学習内容の理解が深まり、算数では、「数と計算」「図形」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

市全体で、1人1台端末等ICT機器を効果的に活用した授業改善のための研修会等に取り組んだことにより、授業でPC・タブレットなどのICT機器が日常的に活用され、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用したことにより、授業改善が図られ、国語では、「情報の扱い方に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、公式やきまりを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、学習内容の理解が深まり、数学では、「数と式」の領域で全国平均正答率に最も近くなったと考えられる。

市全体で、1人1台端末等ICT機器を効果的に活用した授業改善のための研修会等に取り組んだことにより、授業でPC・タブレットなどのICT機器が日常的に活用され、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【網走市の学力向上策】

- ◎ 市内全校の公開研究会の実施及び各研究会や研修会への教職員の参加、学力フォーラムの実施等による指導方法工夫改善の全体化
- ◎ 基礎・基本の定着に向けた算数科・数学科における学習支援員の配置による少人数指導や補習学習の実施
- ◎ 家庭における学習習慣を確立するための生活リズムチェックシートの積極的な活用
- ◎ 1人1台端末等ICT機器を効果的に活用した授業改善のための研究及び研修会等の実施
- ◎ 授業改善に向け、道内外から教育研究者を講師として招聘した市内小・中学校における研究会の実施

【Webページ】



(R5.11掲載予定)

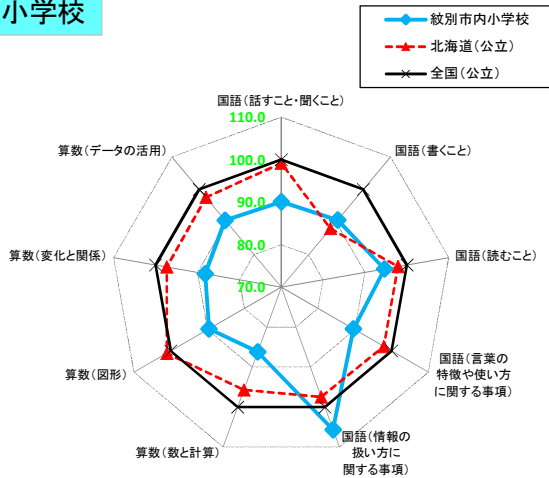
■紋別市内の状況及び学力向上策（小学校数:6校、児童数:132人）（中学校数:3校、生徒数:113人）

【教科全体の状況】

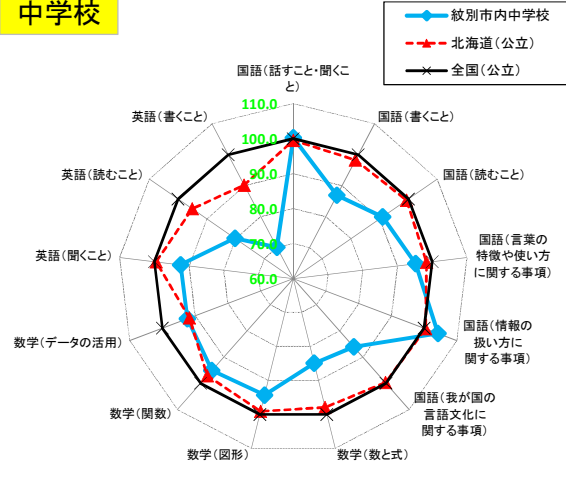
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	63	65
算数・数学	55	46
英語		38

小学校

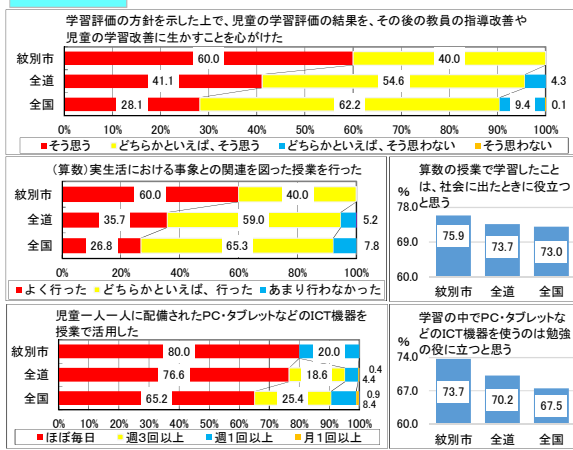


中学校

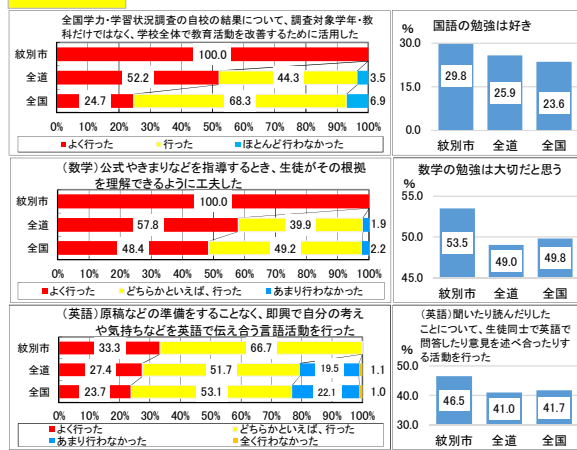


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

学習評価の方針を示した上で、児童の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かすことを心がけたことにより、学習内容の理解が深まり、国語では、「情報の扱い方に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業で学習したことは、社会に出たときに役立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、算数では、「データの活用」の領域で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

市全体で、GIGAスクールに関する小中連携のための研修会等に取り組んだことにより、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器が授業で活用され、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用したことにより、国語の勉強が好きと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「話すこと・聞くこと」の領域及び「情報の扱い方に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、数学の勉強は大切と思うと回答した生徒の割合が全国を上回るとともに、数学では、「関数」の領域で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

英語の授業で、原稿などの準備をすることなく、即興で自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行ったことにより、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動を行ったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【紋別市の学力向上策】

- ◎ 「紋別市教育向上プロジェクト(MKP)会議」による学力向上・GIGAスクールに関する小中連携の推進
- ◎ 職員研修事業(「MKP研修シリーズ」「MKPフォーラム」他)の実施
- ◎ 学校図書館司書の全校配置(一部常駐)、学校図書充実による学校図書館の活用促進
- ◎ 学力知能状況調査事業による全学年の学力等の分析
- ◎ 電子黒板等の導入によるICT環境の整備と1人1台端末の効果的な活用の推進
- ◎ 教育委員会、市広報による住民、地域の学力に関する意識の醸成

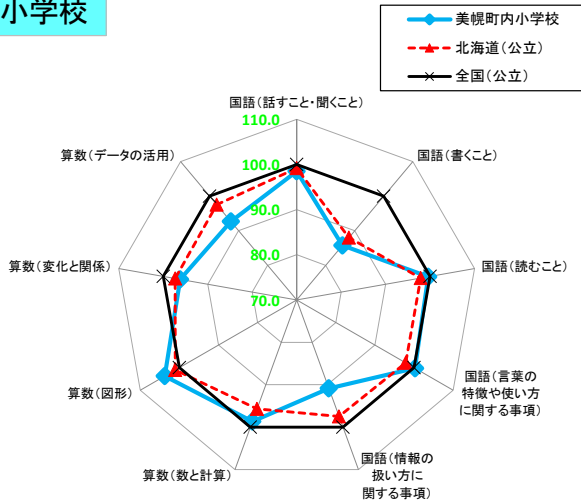
■美幌町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:118人）（中学校数:2校、生徒数:132人）

【教科全体の状況】

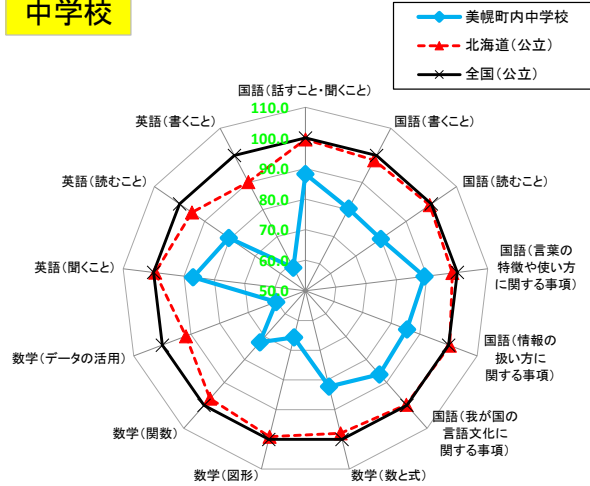
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	66	59
算数・数学	61	37
英語		37

小学校



中学校

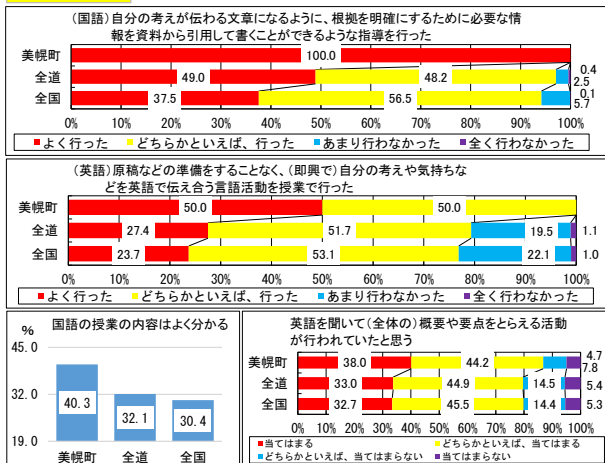


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づく一連のPDCAサイクルを確立していることにより、各学校において、課題となる教科や領域に重点を置いた授業改善が推進され、国語の勉強が好きと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

教員が大型提示装置等（プロジェクター、電子黒板等）のICT機器を活用した授業をほぼ毎日行ったことにより、児童が視覚的に捉えることができる授業改善が推進され、算数の勉強が好きと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、算数では、「図形」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことができるような指導を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

英語の授業において、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を授業で行ったことにより、英語を聞いて（全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、英語では、「聞くこと」の領域で全国平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

【美幌町の学力向上策】

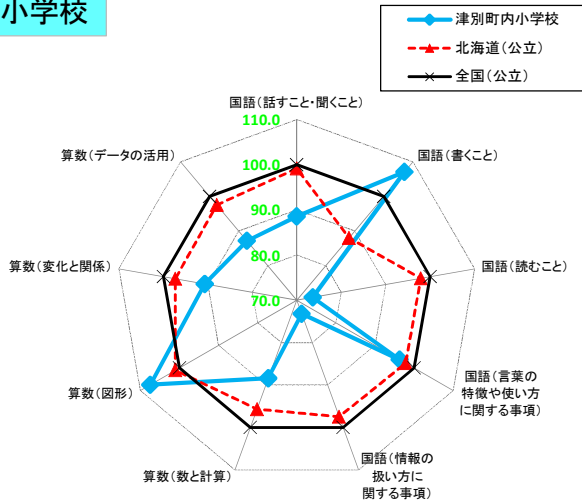
- ◎ 「読書の大切さ」を家庭に啓もうするとともに、図書館と連携し「読書好き」な子を育成する取組の推進
- ◎ 家庭における学習習慣を確立するための小中一貫した「家庭学習の指標」の作成と積極的な活用の促進
- ◎ 若手・中堅教職員の授業力・指導力向上に向けたICTを活用した研修会や公開研究会の実施

■津別町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:14人）（中学校数:1校、生徒数:16人）

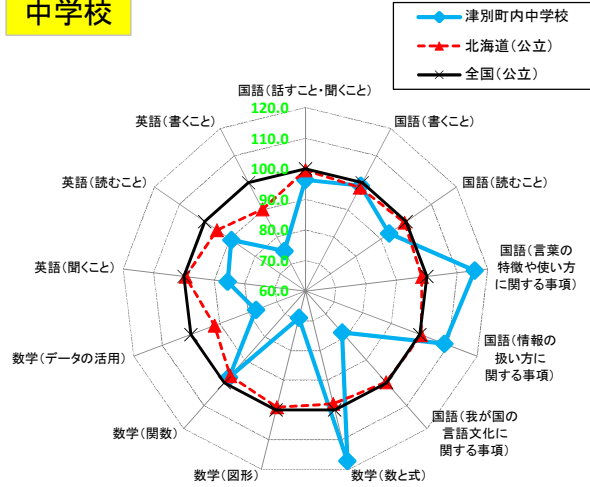
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

小学校

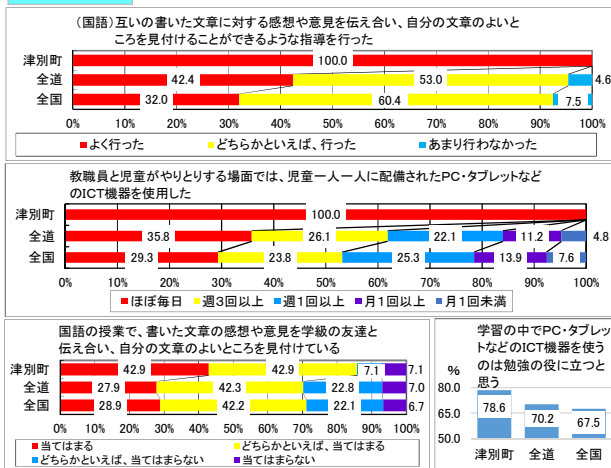


中学校

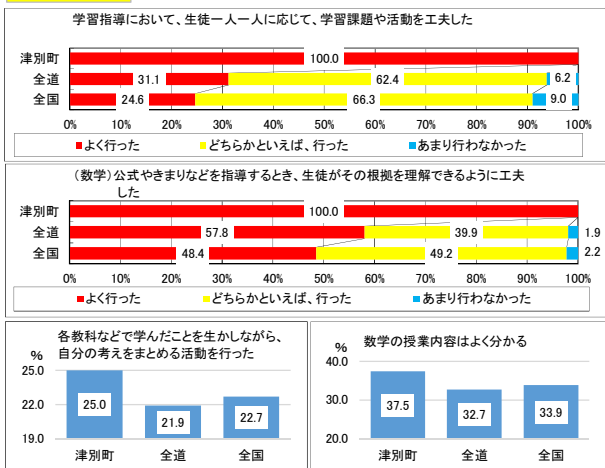


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
 国語の授業において、互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導を行ったことにより、書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見付けていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「書くこと」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。
 教職員と児童がやりとりする場面で、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用させたことにより、ICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、算数では、「図形」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校
 授業において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行ったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」「情報の扱い方にに関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。
 数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、数学の授業内容はよく分かるという回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学では、「数と式」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【津別町の学力向上策】

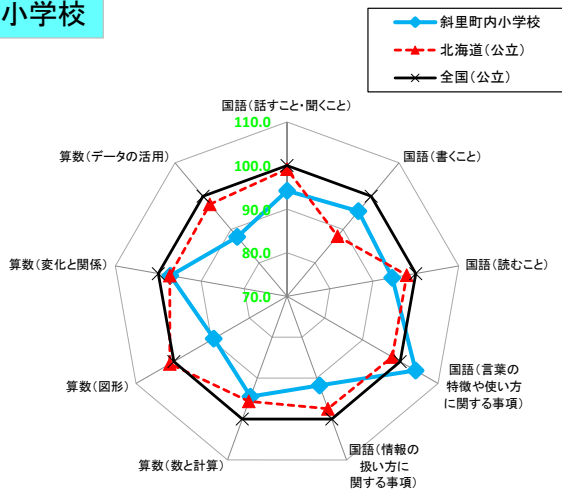
- ◎ 「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善の推進
- ◎ ICT教育環境の整備
- ◎ 学校図書館の充実
- ◎ 家庭学習の習慣化

■斜里町内の状況及び学力向上策 (小学校数:3校、児童数:98人) (中学校数:2校、生徒数:90人)

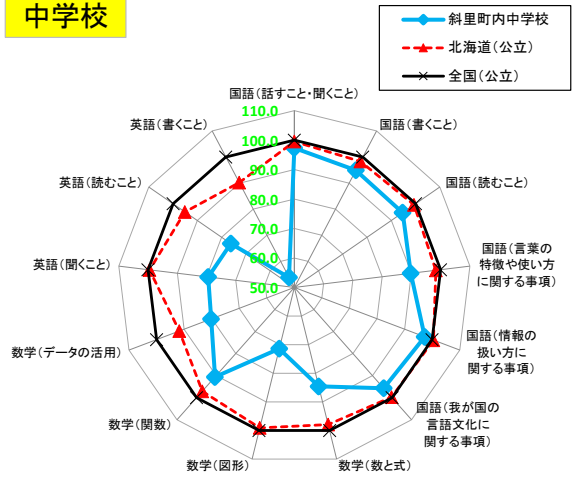
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものと(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

小学校

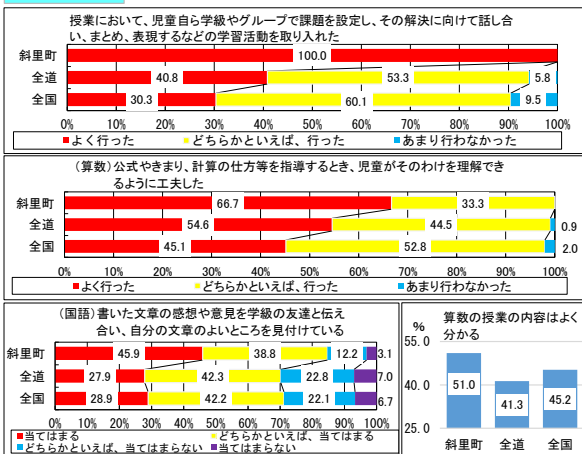


中学校



【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、国語の授業で、書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見付けていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数の授業において、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫したことにより、算数の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、算数では、「変化と関係」の領域で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

中学校

国語の授業において、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫することができるような指導を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「話すこと・聞くこと」の領域及び「情報の扱いに関する事項」で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学では、「関数」の領域で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

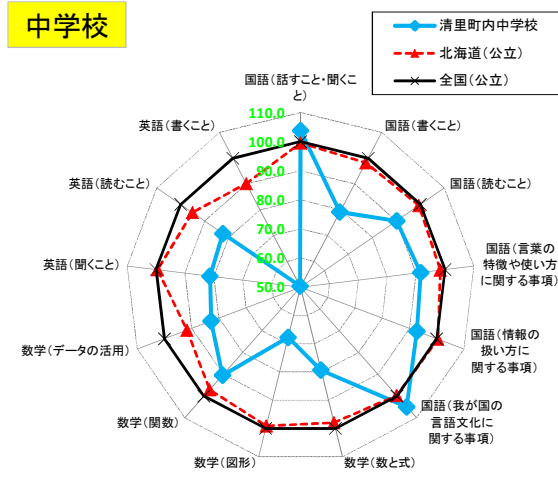
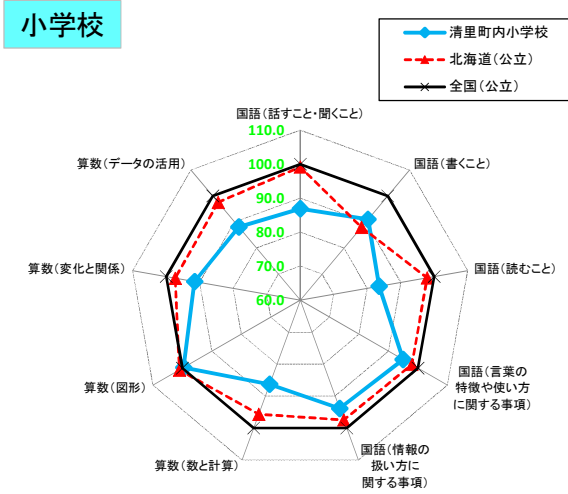
【斜里町の学力向上策】

- ◎ 義務教育学校における小中一貫教育及び中学校を軸とした小中連携の充実
- ◎ 町内全校における、特色ある学校づくりを支援する校長提案型事業の実施
- ◎ 1人1台端末などICT機器を積極的に活用した授業改善の推進
- ◎ 教育活動支援講師の配置と放課後や長期休業中の学び直しの機会の提供等、きめ細かな学習環境の整備
- ◎ 学習習慣や生活習慣の定着を目指した土曜授業の実施

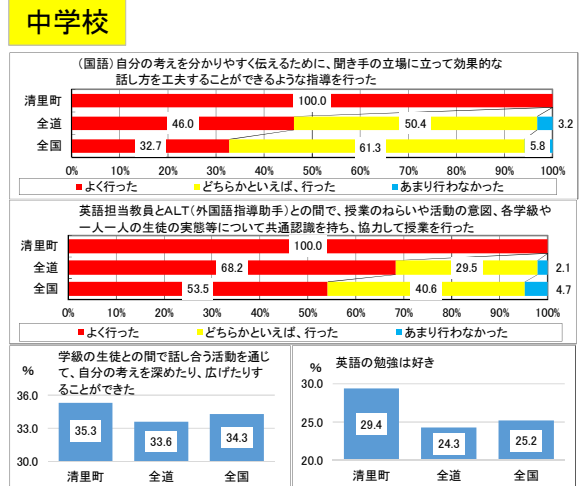
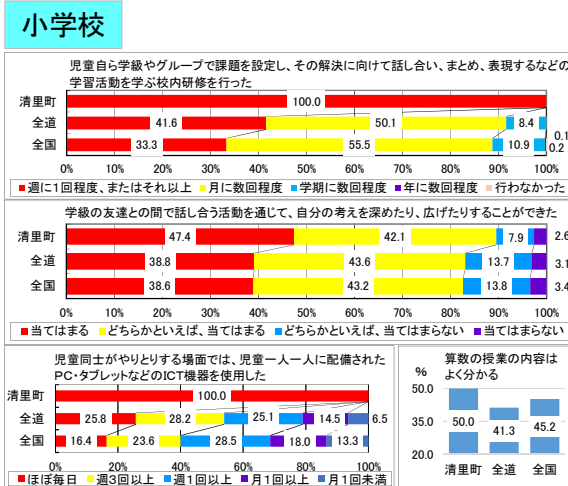
■清里町内の状況及び学力向上策（小学校数：1校、児童数：37人）（中学校数：1校、生徒数：34人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行ったことにより、授業改善が図られ、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

授業において、児童同士がやりとりする場面で、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日活用したことにより、授業改善が図られ、算数の授業はよく分かることにより、算数の授業の割合が全国及び全道を上回るとともに、算数では、「図形」の領域で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

中学校

国語の授業において、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立つて効果的な話し方を工夫することができるような指導を行ったことにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「話すこと・聞くこと」の領域及び「我が国の言語文化に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

英語の授業において、英語担当教員とALT(外国語指導助手)との間で、授業のねらいや活動の意図、各学級や一人一人の生徒の実態等について共通認識を持ち、協力して授業を行ったことにより、授業改善が図られ、英語の勉強が好きと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、英語では、「読むこと」の領域で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

【清里町の学力向上策】

- ◎ 個別支援や習熟度別指導のための支援員の配置
- ◎ 小・中・高の連携による長期休業中の補充的な学習サポート教室の実施
- ◎ 小・中・高への外国人英語講師の派遣
- ◎ ICT機器を活用した効果的な授業改善を推進するために大型掲示装置(プロジェクター、大型テレビなど)の設置

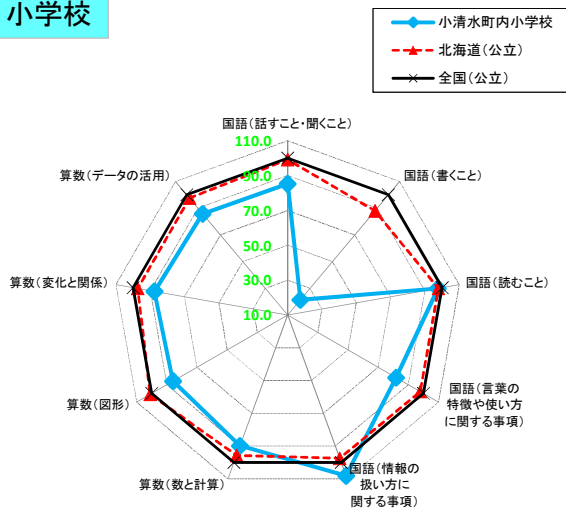
■小清水町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:35人）（中学校数:1校、生徒数:33人）

【教科全体の状況】

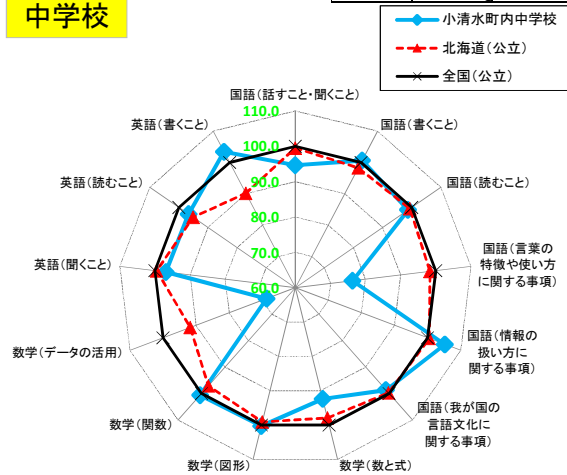
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	59	67
算数・数学	55	46
英語		45

小学校

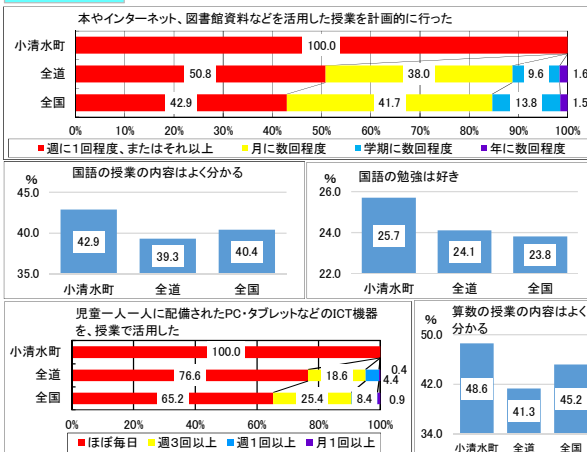


中学校

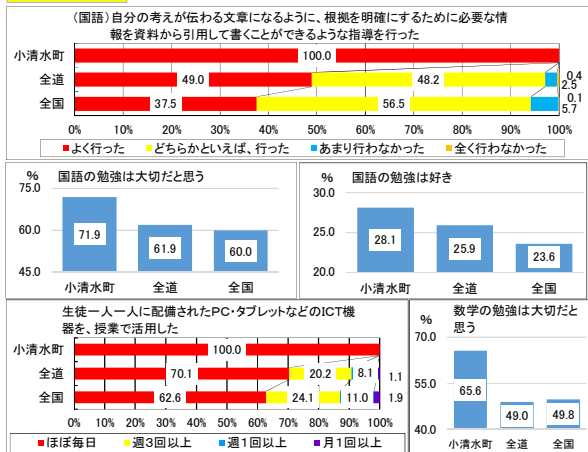


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

授業において、本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行ったことにより、学習内容の理解が深まり、国語の授業の内容はよく分かる、国語の勉強は好きと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「情報の扱い方に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

授業において、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業で活用したことにより、授業改善が図られ、算数の授業の内容はよく分かることにより、算数では、「数と計算」の領域で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

中学校

国語の授業において、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことができるような指導を行ったことにより、学習内容の理解が深まり、国語の勉強は大切だと思う、国語の勉強は好きと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「書くこと」の領域及び「情報の扱い方に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

授業において、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日活用したことにより、授業改善が図られ、数学の勉強は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学では、「図形」「関数」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【小清水町の学力向上策】

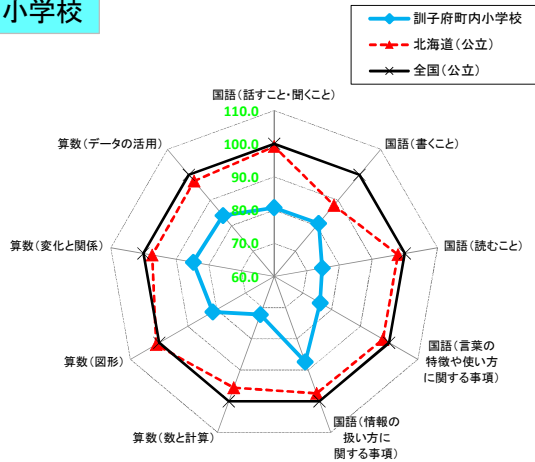
- ◎ 小中合同研修、小中相互授業参観等による指導方法の共通理解と接続
- ◎ 小中一貫教育による義務教育9年間の系統性・連続性に配慮した教育課程の編成と実践
- ◎ 家庭と連携した学習習慣の確立と望ましい生活習慣づくりの取組の推進
- ◎ 1人1台端末を効果的に活用した授業改善の推進

■ 訓子府町内の状況及び学力向上策 (小学校数:2校、児童数:37人) (中学校数:1校、生徒数:30人)

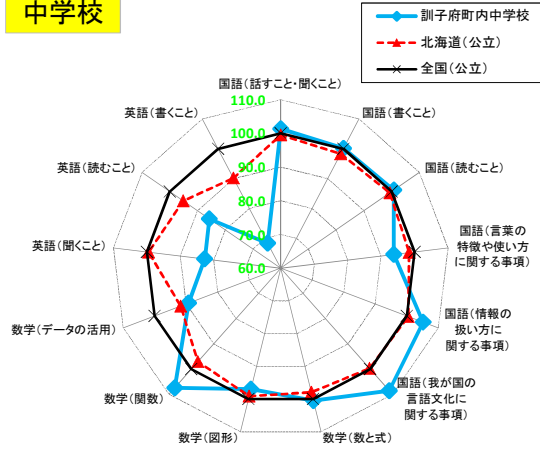
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

小学校

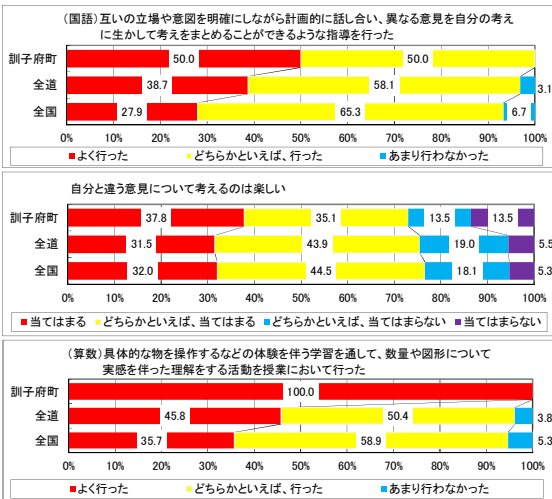


中学校

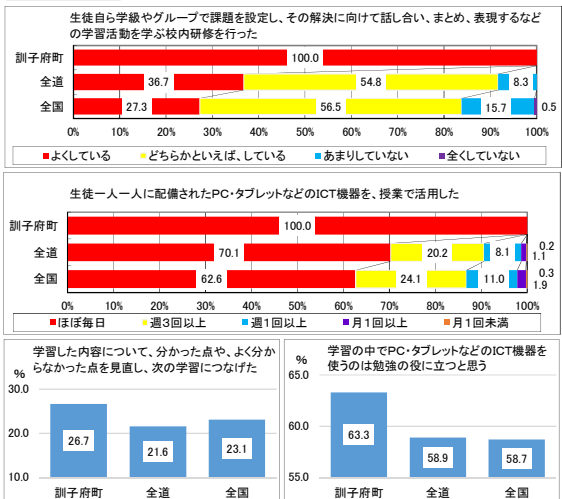


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、互いの立場や意図を明確にしなが計画的に話し合い、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるよう指導を行ったことにより、自分と違う意見について考えるのは楽しいと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「情報の扱い方に関する事項」で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行ったことにより、学習内容の理解が深まり、算数では、「変化と関係」の領域で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

中学校

生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行ったことにより、授業改善が図られ、学習した内容を見直し次の学習につなげたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域及び「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用したことにより、ICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学では、「数と式」「関数」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【訓子府町の学力向上策】

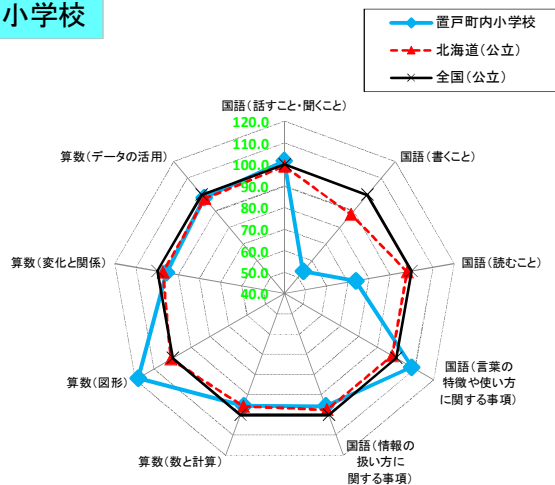
- ◎ 町負担臨時講師を活用したチーム・ティーチングや習熟度別少人数指導の充実
- ◎ 算数専科の加配教諭による指導の充実
- ◎ 放課後や長期休業中の学習サポートの継続的な実施
- ◎ 児童生徒の読書意欲の向上を図る図書室の整備と蔵書数の充実
- ◎ 地域の多様な人材や施設などの地域資源を生かした教育の充実
- ◎ タブレット等のICTを活用した学びを深める授業の充実と家庭学習の充実

■置戸町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:14人）（中学校数:1校、生徒数:18人）

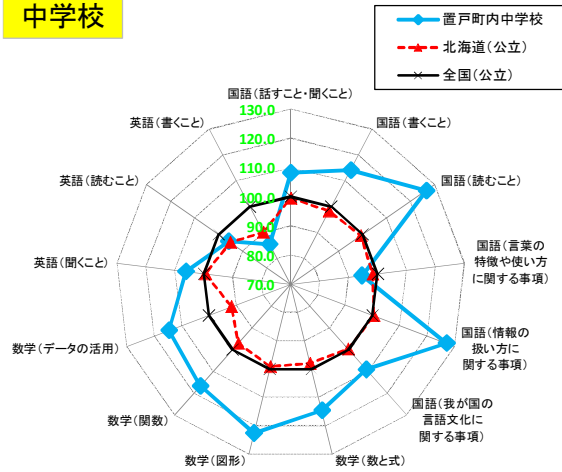
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

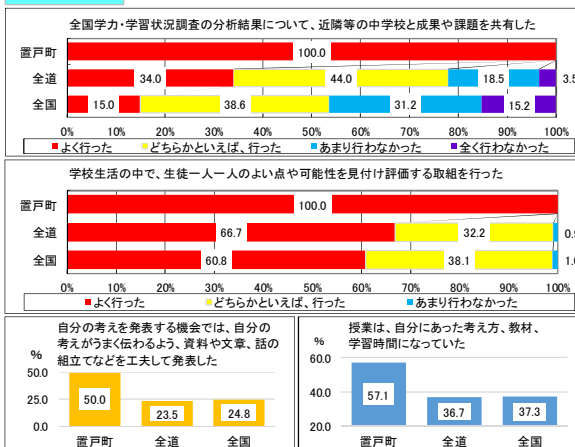


中学校

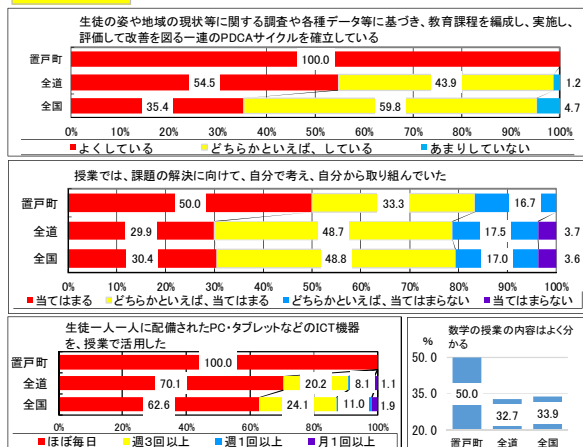


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

全国学力・学習状況調査の分析結果について、町内の中学校と成果や課題を共有したことにより、授業改善が図られ、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表したと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「話すこと」の領域及び「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する取組を行ったことにより、授業改善が図られ、授業は、自分にあった考え方、教材、学習時間になっていたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、算数では、「図形」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立したことにより、授業改善が図られ、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、全ての領域、「情報の扱い方に関する事項」及び「我が国の言語文化に関する事項」の平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

授業において、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日活用したことにより、授業改善が図られ、数学の授業の内容はよく分かることと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学では、全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

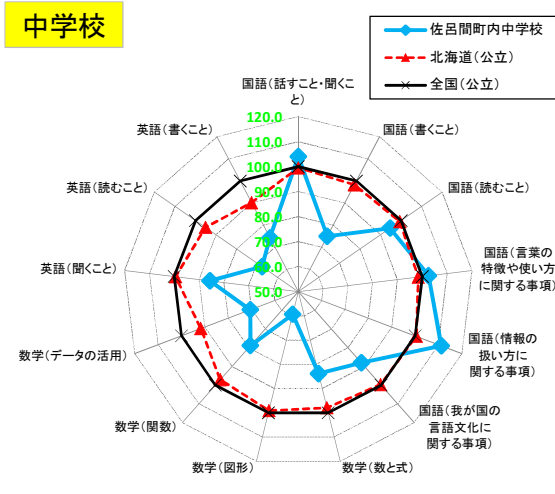
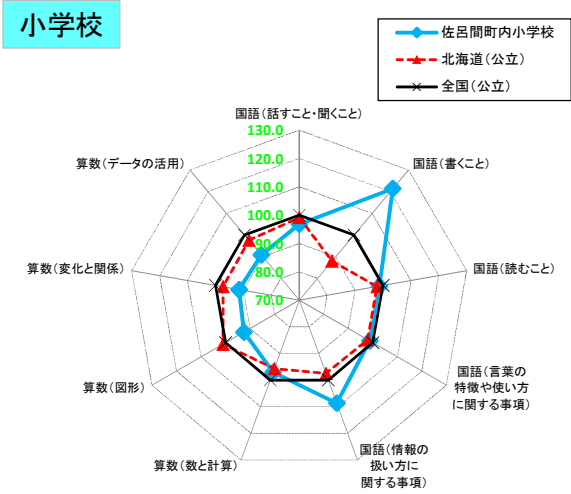
【置戸町の学力向上策】

- ◎ 小・中学校で連携した学習規律「置戸スタンダード」の取組の推進
- ◎ 小中一貫教育の一環として、中学校教員が小学校で乗り入れ授業や出前授業を実施
- ◎ 児童の基礎学力の定着に向けた学習支援員の配置
- ◎ 夏季及び冬季休業中における学習サポートの実施
- ◎ 特別支援教育の充実を図るための支援員の配置
- ◎ 外国語教育の充実を図るための外国語指導助手の派遣

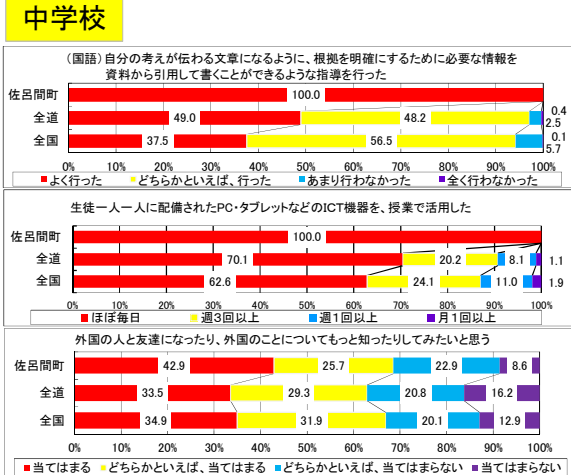
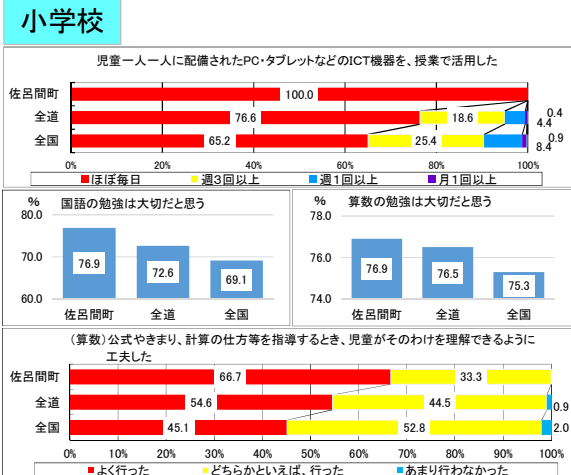
■佐呂間町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:37人）（中学校数:1校、生徒数:39人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

町内全ての小学校において、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日授業で活用したことにより、授業改善が図られ、国語の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「書くこと」の領域、「言葉の特徴や使い方に関する事項」及び「情報の扱い方に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数の授業において、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫したことにより、学習内容の理解が深まり、算数の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、算数では、「数と計算」の領域で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

中学校

国語の授業において、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことができるような指導を行ったことにより、学習内容の理解が深まり、国語では、「話すこと・聞くこと」の領域、「言葉の特徴や使い方に関する事項」及び「情報の扱い方に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日授業で活用したことにより、授業改善が図られ、外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、英語では、「聞くこと」の領域で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

【佐呂間町の学力向上策】

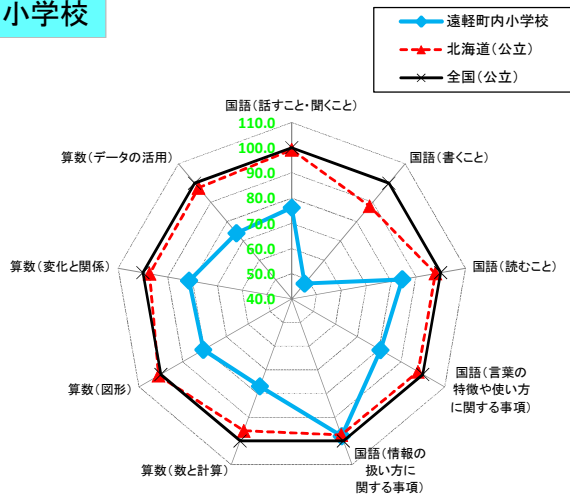
- ◎ タブレットの持ち帰りによる家庭学習の習慣化の取組や、放課後及び長期休業中の補充的な学習サポートの実施、チャレンジテストの活用、学習規律の指導の実施
- ◎ 教員の指導力向上のための教育委員会主催研修の開催、各種研修会への参加奨励及び経費予算付け、指導主事訪問、ICT環境の有効活用
- ◎ 「オールオホーツクで学力向上を！」に基づいた佐呂間町学力向上推進委員会の設置・運営及び小・中・高校の連携強化、学校全体での分析結果及び課題認識の共有の取組の推進
- ◎ 1人1台端末を活用した「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実及びインターネットによる児童生徒の学級満足度アンケートやリーディングスキルテスト(基礎的な読む力を測定・診断するツール)等の活用

■遠軽町内の状況及び学力向上策（小学校数:8校、児童数:149人）（中学校数:7校、生徒数:118人）

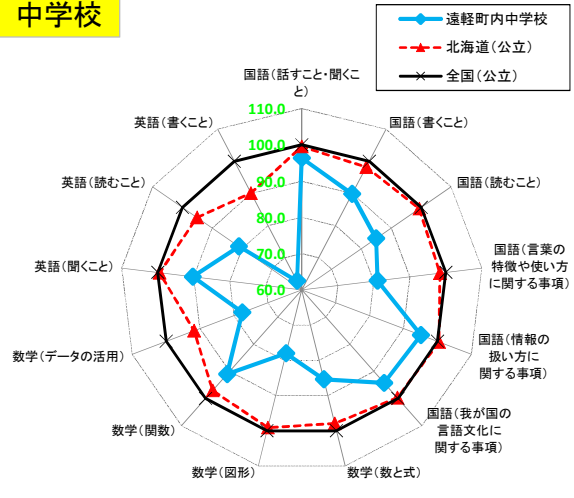
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

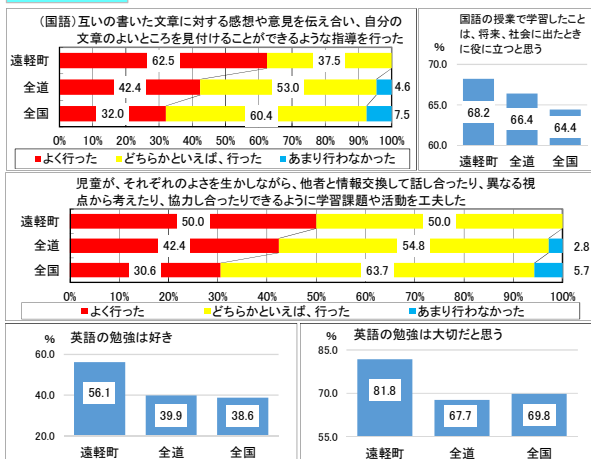


中学校

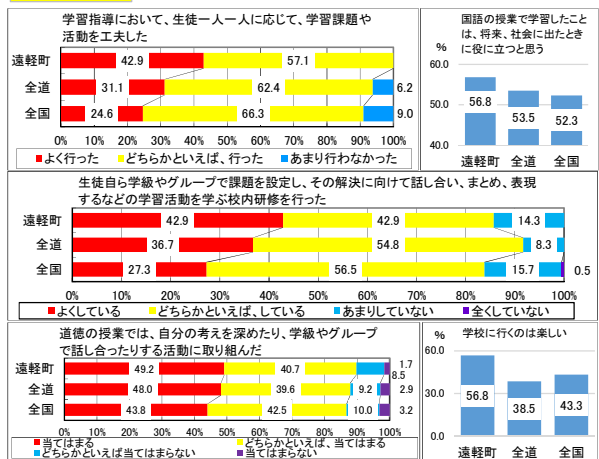


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導を行ったことにより、学習内容の理解が深まり、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「情報の扱い方に関する事項」で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

授業において、英語指導助手を配置し、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、授業改善が図られ、英語の授業が好き、英語の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、授業改善が図られ、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「話すこと・聞くこと」の領域で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行ったことにより、授業改善が図られ、道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、学校に行くのは楽しいと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

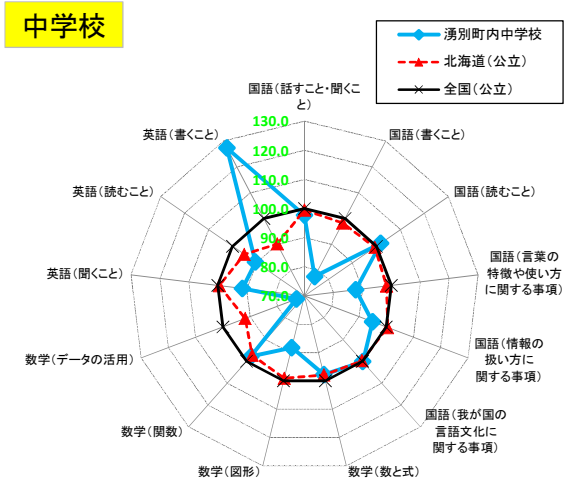
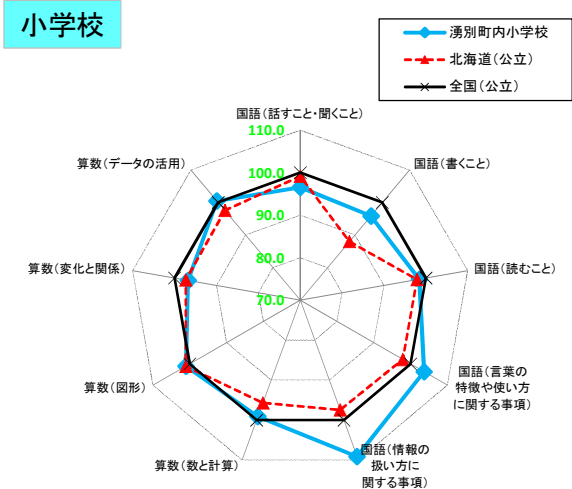
【遠軽町の学力向上策】

- ◎ コミュニケーション能力の向上と国際理解教育の推進
- ◎ 家庭と連携した学習の習慣化と規則正しい生活づくりの推進
- ◎ 外国語活動における言語や文化に対する理解を深めるための英語指導助手の配置
- ◎ 確かな学力の育成・定着を図るための教育用ICT機器の活用

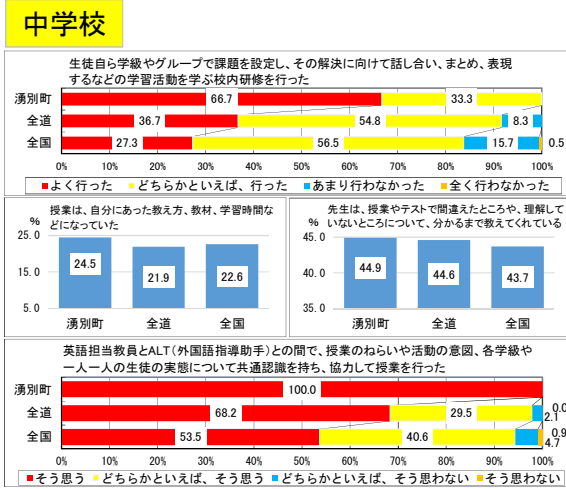
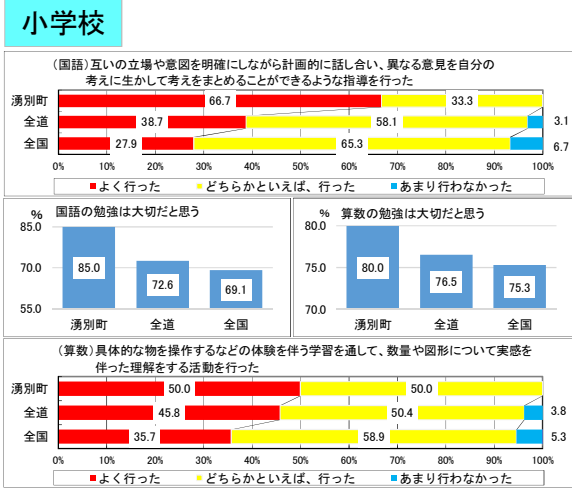
■湧別町内の状況及び学力向上策（小学校数：6校、児童数：39人）（中学校数：3校、生徒数：49人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるような指導を行ったことにより、学習内容の理解が深まり、国語の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「言葉の特徴や使い方に
関する事項」「情報の扱い方に
関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行ったことにより、学習内容の理解が深まり、算数の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、算数では、「図形」「データの活用」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行ったことにより、授業改善が図られ、授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「読むこと」の領域及び「我が国の言語文化に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

英語の授業において、英語担当教員とALT(外国語指導助手)との間で、授業のねらいや活動の意図、各学級や一人一人の生徒の実態について共通認識を持ち、協力して授業を行ったことにより、授業改善が図られ、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、英語では、「書くこと」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【湧別町の学力向上策】

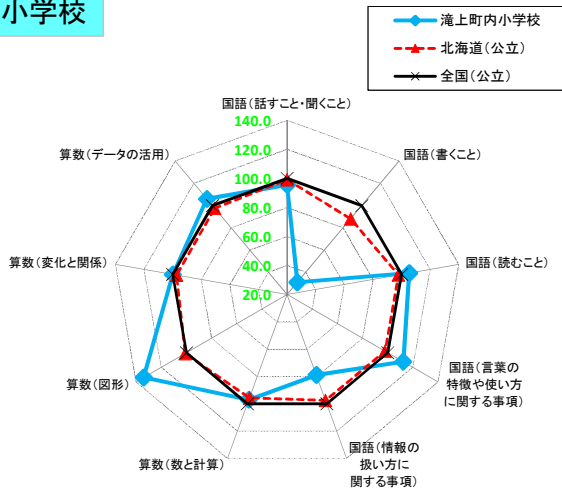
- ◎ 湧別町型学校力向上事業に基づく授業公開や研修事業の実施
- ◎ 全国学力・学習状況調査等を活用した授業改善や学習習慣の確立
- ◎ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学び合いの授業やICT端末の効果的な活用
- ◎ 学力向上支援員や特別支援教育支援員等の配置の充実
- ◎ 長期休業を活用した高校生ボランティア学習サポートの実施
- ◎ 学校図書館支援事業による読書活動の推進

■滝上町内の状況及び学力向上策（小学校数：2校、児童数：12人）（中学校数：1校、生徒数：12人）

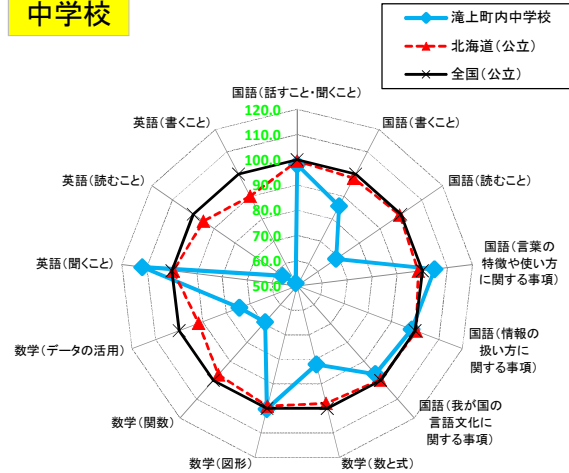
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

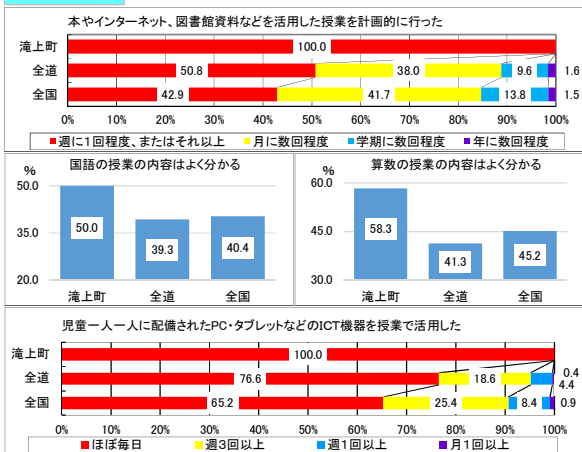


中学校

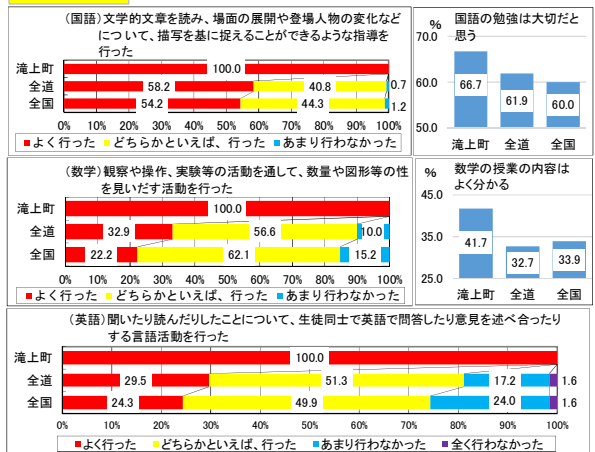


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行ったことにより、学習内容の理解が深まり、国語の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「読むこと」の領域及び「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を授業でほぼ毎日活用したことにより、学習内容の理解が深まり、算数の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、算数では、「図形」「データの活用」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、文学的文章を読み、場面の展開や登場人物の変化などについて、描写を基に捉えることができるような指導を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の勉強は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行ったことにより、授業改善が図られ、数学の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学では、「図形」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

英語の授業において、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動を行ったことにより、学習内容の理解が深まり、英語では、「聞くこと」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【滝上町の学力向上策】

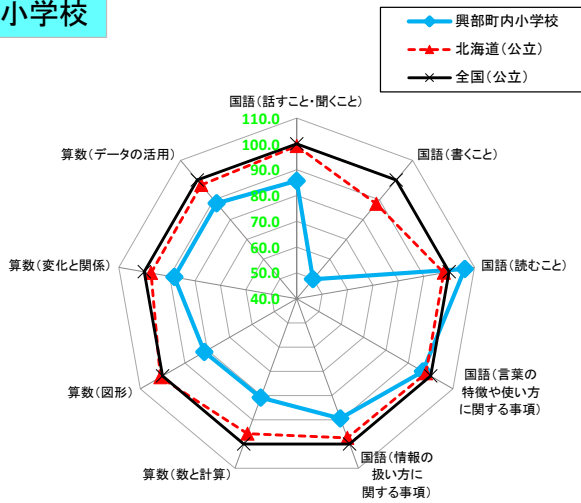
- ◎ 学習意欲の向上に効果的なICT機器等の導入と活用
- ◎ 長期休業中の学習サポートやほっかいどうチャレンジテストの効果的な活用
- ◎ 家庭学習習慣を身に付ける取組の推進
- ◎ 望ましい生活習慣の定着に向けた取組の推進

■興部町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:30人）（中学校数:1校、生徒数:27人）

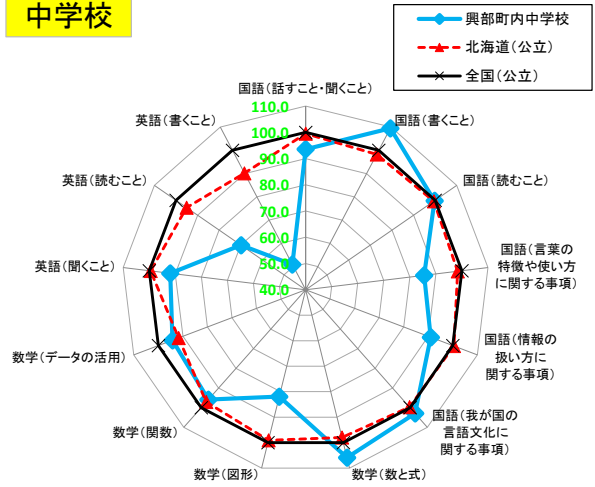
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

小学校

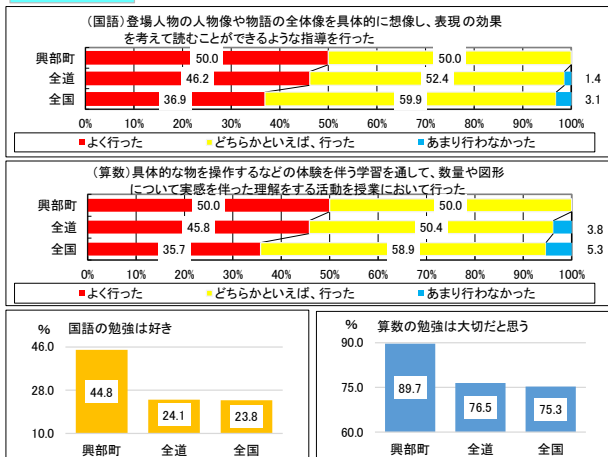


中学校

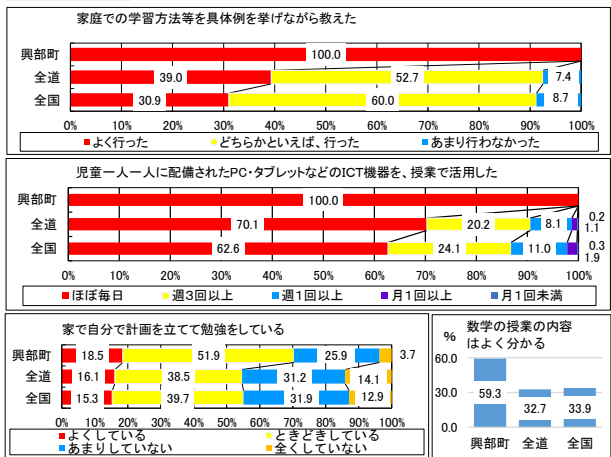


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えることができるような指導を行ったことにより、学習内容の理解が深まり、国語の勉強が好きと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「読むこと」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行ったことにより、算数の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、算数では、「変化と関係」「データの活用」の領域で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

中学校

家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えたことにより、家で自分で計画を立てて勉強をしていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、学習内容の理解が深まり、国語では、「書くこと」の領域及び「我が国の言語文化に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

授業において、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日活用したことにより、授業改善が図られ、数学の授業の内容はよく分かるという回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、「数と式」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【興部町の学力向上策】

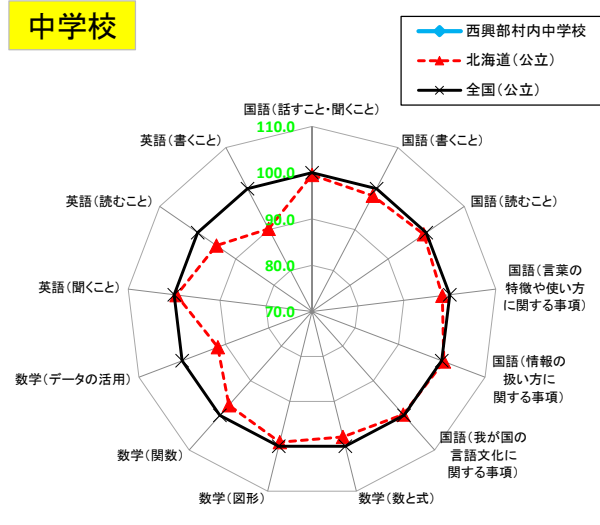
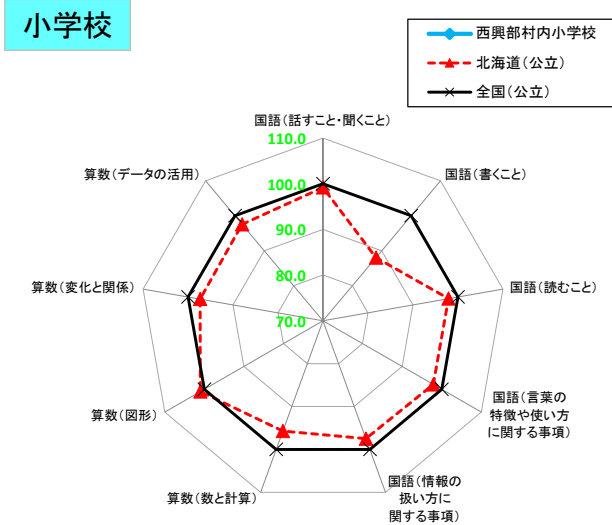
- ◎ 学生ボランティアを活用した補足的な学習サポートの実施
- ◎ 「家庭学習の手引き」を活用した家庭での学習習慣の確立
- ◎ 知能検査や標準学力検査の実施による学習状況の把握と個に応じた指導の充実
- ◎ 1人1台端末や大型提示装置などのICTを活用した授業づくりの推進

■西興部村内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:4人）（中学校数:1校、生徒数:5人）

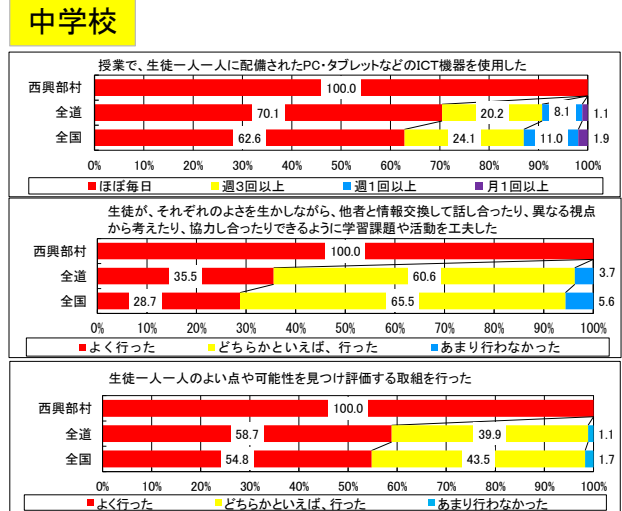
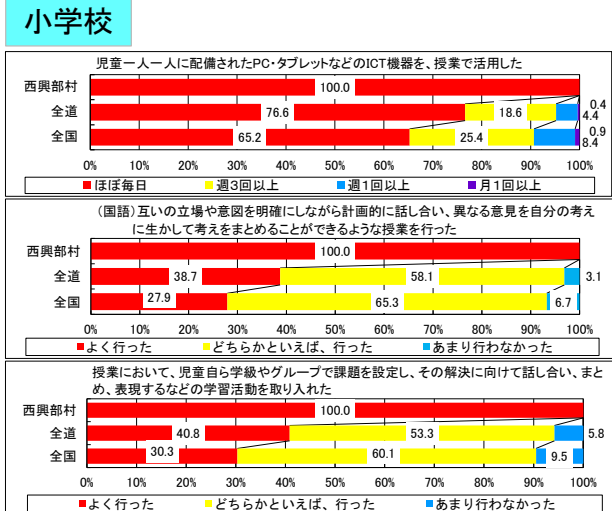
※児童生徒数が少なく、個人の結果が特定される恐れがあるため、小・中学校の教科及び児童生徒質問紙のデータは掲載していない。

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
授業において、PC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使用したと回答した学校の割合が全国及び全道を上回っている。
国語の授業において、互いの立場や意図を明確にしなが ら計画的に話し合い、異なる意見を自分の考 えに生かして考えをまとめることができるよ うな授業を行ったと回答した学校の割合が 全国及び全道を上回っている。
授業において、児童自ら学級やグループで課 題を設定し、その解決に向けて話し合い、ま とめ、表現するなどの学習活動を取り入れ たと回答した学校の割合が全国及び全道 を上回っている。

中学校
授業において、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットな どのICT機器を、ほぼ毎日使用したと回答した学校の割合が 全国及び全道を上回っている。
生徒が、それぞれのよさを生かしなが ら、他者と情報交換して話し合ったり、異 なる視点から考えたり、協力し合ったり できるように学習課題や活動を工夫したと 回答した学校の割合が全国及び全道 を上回っている。
生徒一人一人のよい点や可能性を見 つけ評価する取組を行ったと回答した学 校の割合が全国及び全道を上回って いる。

【西興部村の学力向上策】

- ◎ 全国学力・学習状況調査等の結果を踏まえた、個に応じた指導の充実
- ◎ 村教委が中心となったICT環境の整備
- ◎ 主体的な学習態度、思考力・判断力・表現力等を育む言語活動や読書活動の充実

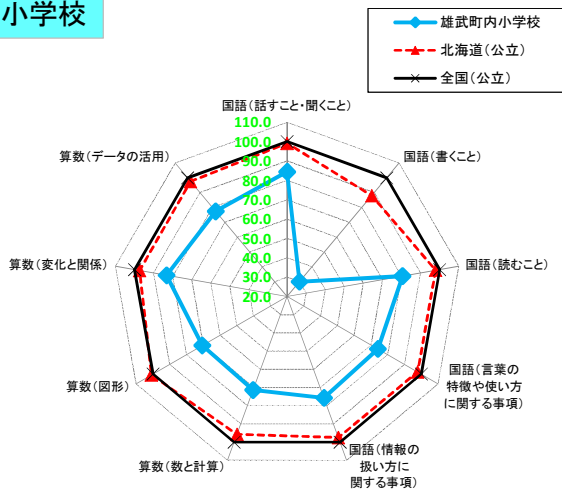
■雄武町内の状況及び学力向上策（小学校数：3校、児童数：25人）（中学校数：1校、生徒数：25人）

【教科全体の状況】

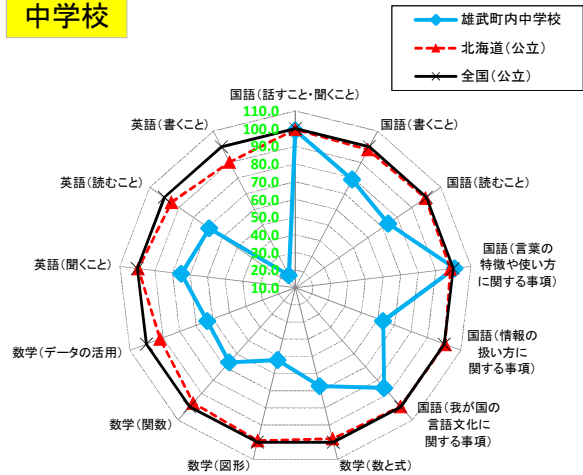
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	52	59
算数・数学	48	33
英語		29

小学校

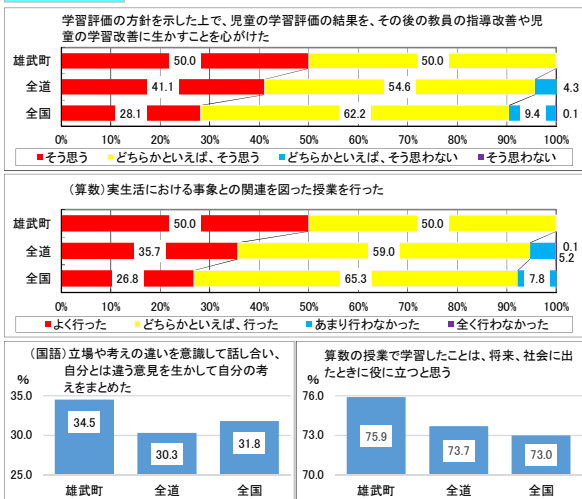


中学校

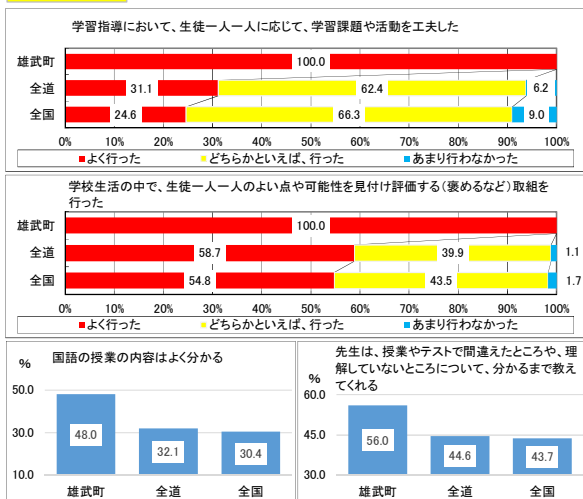


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

学習評価の方針を示した上で、児童の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かすことを心がけたことにより、授業改善が図られ、国語の授業では、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめたことと回答した児童の割合が全国及び全道の割合を上回るとともに、国語では、「話すこと・聞くこと」の領域で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業で学習したことは、将来、役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、算数では、「変化と関係」の領域で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

中学校

学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、授業改善が図られ、国語の授業がよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道の割合を上回るとともに、国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する取組を行ったことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれると回答した生徒の割合が全国及び全道の割合を上回るとともに、英語の「聞くこと」の領域で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

【雄武町の学力向上策】

- ◎ 全国学力・学習状況調査等の分析結果を踏まえた授業改善の推進
- ◎ ICTを活用した効果的な学びの推進及び家庭学習習慣の確立
- ◎ 学習規律の徹底及び授業のねらいや課題を明確にした問題解決的な学習の充実
- ◎ 教職員の自主的研修活動を奨励する教職員教育振興事業等の推進
- ◎ 読書活動の推進による「自ら学び、自ら考える力」の伸長

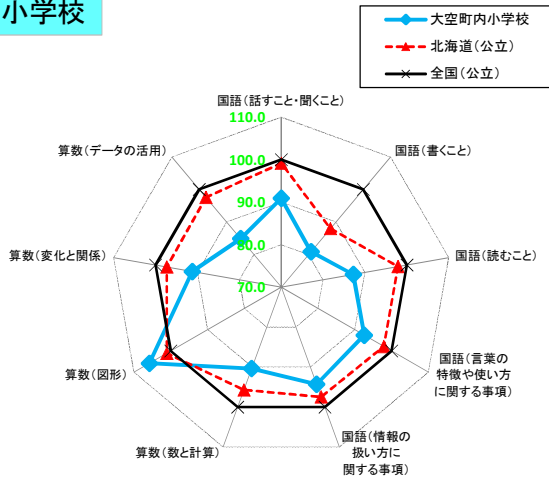
■大空町内の状況及び学力向上策（小学校数：2校、児童数：51人）（中学校数：2校、生徒数：65人）

【教科全体の状況】

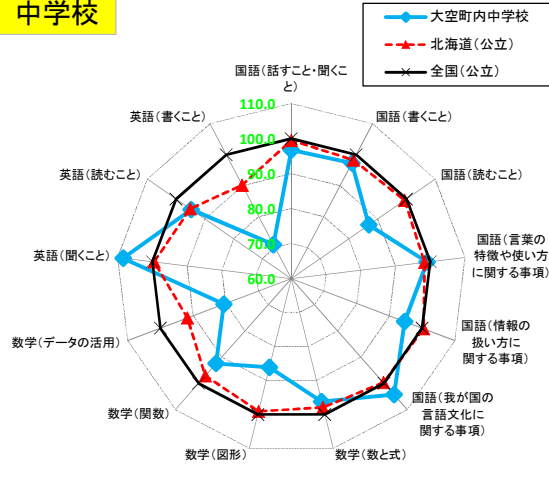
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	61	67
算数・数学	58	46
英語		44

小学校

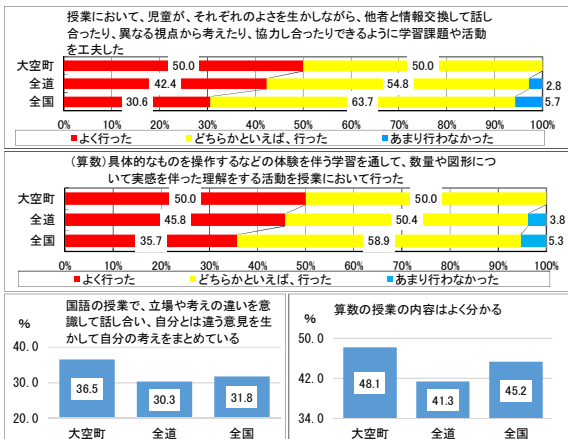


中学校

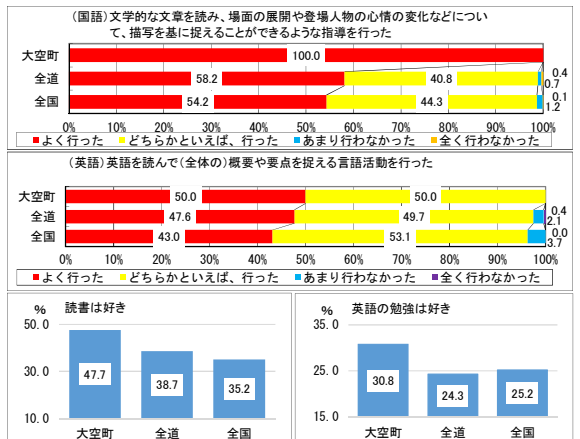


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

授業において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「情報の扱い方に関する事項」で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

算数の授業において、具体的なものを操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行ったことにより、算数の授業の内容はよく分かれると回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、算数では、「図形」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるような指導を行ったことにより、読書が好きと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「我が国の言語文化に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

英語の授業において、英語を読んで（全体の）概要や要点を捉える言語活動を行ったことにより、学習内容の理解が深まり、英語の勉強が好きと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、英語では、「聞くこと」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【大空町の学力向上策】

- ◎ 長期休業中の補充学習（学習サポート体制）など、一人一人に対応したきめ細かな指導の充実
- ◎ 全国学力・学習状況調査結果を基にした学校改善プランを策定し学習指導の工夫・改善
- ◎ ICT機器を活用した誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」「協働的な学び」の推進
- ◎ ICT機器の活用により、「説明を聞く」に加えて「説明が見える」視覚情報を強化した授業づくりの推進
- ◎ 図書館司書の巡回配置による読書活動の推進
- ◎ 家庭学習・宿題など、全校統一した取組による家庭における児童生徒の学習習慣の定着

【Webページ】



(R5.11掲載予定)